

社会福祉法人 健誠会

令和 6 年度 事業報告

令和 7 年 6 月

1. 法人の概要

- (1) 名 称 社会福祉法人 健誠会
- (2) 事務所の所在地 茨城県つくば市大曾根 3690
- (3) 設立認可年月日 平成 13 年 10 月 16 日
- (4) 事業の概要

○ 第一種社会福祉事業

- ・ 特別養護老人ホームの経営
- ・ 障害者支援施設の経営

○ 第二種社会福祉事業

- ・ 老人デイサービス事業の経営
- ・ 老人短期入所事業の経営
- ・ 障害福祉サービス事業の経営
- ・ 一般相談支援事業の経営
- ・ 特定相談支援事業の経営
- ・ 障害児相談支援事業の経営

(5) 役員・評議員（令和 7 年 3 月 31 日現在）

【理事長】 市原万里子

【業務執行理事】 市原健一

【理事】 細田市郎 川村晴一 稲葉一行 市原琢己 東郷文幸

杉田慶也 上田文代

【監事】 馬場清康 大沼勝美

【評議員】 林浩一郎 鈴木富士雄 松宮洋子 久野まち 柿沼宜夫
藤田萬豊 塚本洋二 久松道夫 国府田友康 酒井泰寿

(6) 理事会・評議員会の開催状況

理事会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議 案 名
2024.6.11 (2024.5.30)	・令和5年度決算 ・令和5年度事業報告 ・役員等賠償責任保険契約について ・定款の変更について ・定時評議員会の日時及び場所、議案の決定について
2024.7.31 (2024.7.10)	・評議員選任・解任委員会の開催、委員の選任について ・役員候補者の推薦について ・評議員候補者の推薦について ・定款変更について ・報酬支給基準及び上限額について ・評議員会の日時及び場所、議題の決定について
2024.8.29 (2024.8.27)	・業務執行理事について
2024.10.29 (2024.10.11)	・請求ソフトほのぼの・PC等情報関連機器の更新契約について ・入浴介助業務委託契約について
2024.12.2 (2024.11.20)	・令和6年度下期第一次補正予算（案） ・評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正について ・サポートプラザつくば 一般相談支援 運営規程の変更について ・サポートプラザつくば 特定相談・障害児相談支援 運営規程の変更について ・評議員会の日時及び場所、議題の決定について
2025.3.10 (2025.2.25)	・令和6年度下期第二次補正予算（案） ・令和7年度予算 ・令和7年度事業計画 ・評議員会の日時及び場所、議案の決定について
2025.4.21 (2025.4.5)	・施設利用料金の改定に伴う、運営規程の改定について

評議員会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議 案 名
2024.6.27 (2024.6.12)	・ 令和 5 年度決算 ・ 定款の変更について
2024.8.27 (2024.7.31)	・ 理事の選任について ・ 定款変更について ・ 報酬支給基準及び上限額について
2024.12.17 (2024.12.2)	・ 令和 6 年度下期第一次補正予算 (案)
2025.3.28 (2025.3.11)	・ 令和 6 年度下期第二次補正予算 (案) ・ 令和 7 年度予算 ・ 令和 7 年度事業計画

評議員選任・解任委員会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議 案 名
2024.8.9 (2024.7.31)	・ 評議員の選任について

(7) 施設・職員数・定員

令和7年3月1日現在

施設名	施設長・管理者	職員数	利用者定員
シニアガーデン	高野聡美	常勤 54名 非常勤 7名	50名(入所) 20名(短期入所) 29名(別館入所)
シニアガーデンアネックス	岡田満博	常勤 38名 非常勤 11名	29名(入所) 20名(短期入所) 40名(通所)
居宅介護支援事業所 シニアガーデンアネックス	浅井太陽	常勤 5名 非常勤 1名	
つくば総合福祉センター	福島弘晶	常勤 35名 非常勤 10名	40名(入所生活介護) 20名(通所生活介護) 4名(短期入所)
一般・特定障害者(児)相談支援 事業所サポートプラザつくば	横尾 翼	常勤 5名 非常勤 0名	
知的障害者グループホーム 六本木ヒルサイドホーム	藤田 陽	常勤 5名 非常勤 5名	10名(共同生活援助) 2名(短期入所)
特別養護老人ホーム 永福南社会福祉ガーデン	大島茂則	常勤 30名 非常勤 1名 派遣 5名	60名(入所) 10名(短期入所)
障害者支援施設 永福南社会福祉ガーデン	大島茂則	常勤 15名 非常勤 2名 派遣 3名	10名(入所支援) 1名(短期入所) 6名(通所生活介護)
相談支援事業所 永福南社会福祉ガーデン	高須賀潮理	常勤 1名	
特別養護老人ホーム 南麻布シニアガーデンアリス	上田文代	常勤 48名 非常勤 2名 派遣 6名	80名(特養) 10名(短期入所) 20名(地域密着特養)
港区立障害者支援ホーム南麻布	中嶋京子	常勤 41名 非常勤 6名 派遣 11名	40名(入所支援) 40名(生活介護) 4名(短期入所)
港区立障害者支援ホーム南麻布 障害者(児)相談支援事業所	前原 真二	常勤 1名 非常勤 1名	

(8) 地域における公益的な取組

「地域の方と交流」事業

大曾根上構造改善センターを主な会場として、地域の高齢者を対象に、無料で体操・介護相談・折り紙・クイズ等の活動を実施。

実施日	参加人数	主な活動内容
令和6年 4月28日	12名	水分摂取(講和:脱水予防について) 手指体操 スーダラ節体操
5月26日	11名	介護相談 全身体操 脳トレ(ふるさと言葉詰め クロスワードパズル 間違い探し)
6月23日	12名	介護相談 日本の紙幣 20年ぶりに変わる 指の体操 脳トレ(言葉並び替え問題) ブロック積み
7月28日	13名	介護相談 納涼祭の花作り 懇談
9月29日	12名	介護相談 昭和の良き時代鑑賞 リズム体操 認知症予防
10月27日	11名	介護相談 運動会(ボール送り 玉入れ 点数カップ 紐の長さ対決)
11月10日	9名	介護相談 紅白玉入れ ブロック倒し 紙送り(下肢体操) ブロック積み
12月22日	18名	昼食会 介護相談 認知症予防体操 脳トレ 昭和歌謡曲 お別れの会

※ 社会福祉法第24条2項(社会福祉法人は、社会福祉事業及び第二十六条第一項に規定する公益事業を行うに当たっては、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するように努めなければならない。)

(9) 苦情解決の取り組みについて

1. 目的

- 苦情への適切な対応により、福祉サービスに対する利用者の満足感を高めることや早急な虐待防止対策が講じられ、利用者個人の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用することができるように支援する。
- 苦情を密室化せず、社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や事業者の信頼や適正性の確保を図る。

2. 第三者委員

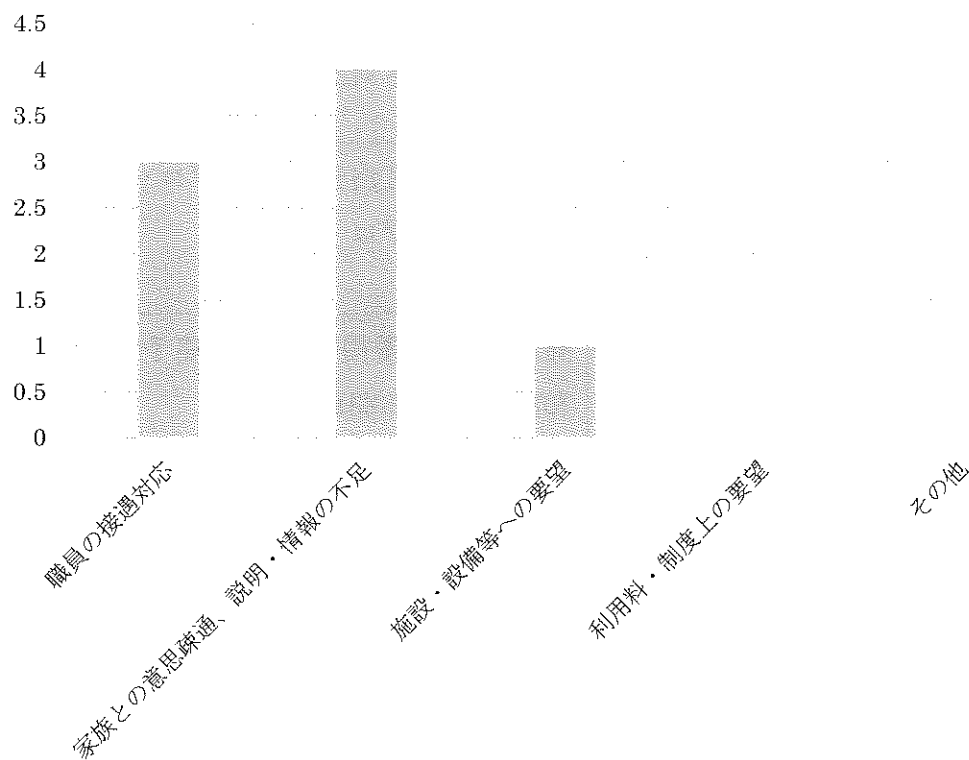
苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を推進するため、第三者委員を設置しています。

3. 令和6年度苦情解決の結果

苦情受付	苦情受付の記録	11
	第三者委員報告	0
	第三者委員の助言	0
苦情解決	苦情解決の記録	11
	第三者委員への報告（解決結果）	0

※法人内全事業所の合計

苦情の内容



2. 施設・事業所別事業報告

令和6年度事業報告（施設名 シニアガーデン/シニアガーデン別館）

事業所名	定員	稼働率
特別養護老人ホーム	50名	97%
短期入所生活介護	20名	91%
地域密着型特別養護老人ホーム	29名	84%

事業の概要

（特別養護老人ホーム 入所）

令和6年7月～8月にかけて新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、職員2名・利用者14名の罹患が確認され、コロナ罹患が引き金となり体調を崩し2名が入院となりました。またコロナ感染症とは別に、胆嚢炎・脳梗塞再発などで月平均2.2人の入院が続きしました。退院と同時に看取り介護として施設に戻られる利用者も多く、13名の入退所の動きがありました。

施設内研修では、12月に外部講師を招き「人権擁護」についての勉強会を実施しました。グループワークで他部署職員との意見交換ができ、自身の言動だけでなく利用者に対するケアの振り返りの機会となりました。

（短期入所生活介護）

令和6年度は17名の新規受け入れをしました。利用相談の傾向としては、居宅介護支援事業所・グループ内外病院以外に、家族がつくば市在住・利用者が他県施設からの移動希望という内容の相談で家族からの問い合わせが増えてきています。今後もロングショートの需要は高いと思われるので、早期受け入れが出来るよう調整して参ります。

（地域密着型特別養護老人ホーム）

上期の入院者は少なかったですが、下期になり肺炎・脳梗塞再発・心筋梗塞での入院が続きしました。また8月と12月にコロナ罹患者が確認されました。感染対策のシミュレーションはしていましたが、8月の罹患が施設内で初めての感染であり、慌ててしまう様子があったので再度マニュアルの見直しを実施しました。

申し込みについては、待機者に声をかけても金銭面で躊躇される方が多く、また新規申し込みが少なくなっている状況です。引き続き営業を実施し、待機者確保に努めて参ります。

令和 6 年度事業報告（施設名 シニアガーデンアネックス）

事業所名	定員	稼働率
地域密着型特別養護老人ホーム	29 名	95.5%
短期入所生活介護	20 名	79.0%
通所介護	40 名	86.3%

事業の概要

<地域密着型特別養護老人ホーム>

入所待機者が例年を下回る状況が一年を通し続いており、申込みをされている方でも入所契約まで至らないケースも多く、待機者がいても空床が目立つ場面が多く見られました。入院総数も昨年度を上回ったこともあり平均稼働が微減しました。後半は有効待機者確保のため病院や老健、居宅介護支援事業所へのアピール強化を行い、また、地域活動やホームページ等のアピールにも注力し相談案件を増やし、安定稼働となるよう努めて参りました。

<短期入所生活介護>

入所へ申込みをされているロング利用者の入所への移行が本年度は多く、夏から年末にかけて、ロング利用者が一桁の月が続きました。また、通所と併用されている利用者も多いため、単発利用者の総数が 20 名を超え、居室精査に苦戦する場面も多く見られ、利用者総数の割に稼働率が伴わない状況が続きました。後半は単発利用者のロング移行推進が機能し、一定のロング利用者確保に繋がりました。単発でご利用されている通所併用の方のロングへの移行が多くあった事から、引き続き事業所内連携の強化を図って参ります。

<通所介護>

一定の稼働が一年を通じ保つことが出来ましたが、11 月より定員を 40 名に増やした事で営業体制を更に見直し、迅速な受入れが継続的に行えるよう強化を図りました。ご利用者数は予定の数値となりましたが、職員補充に苦戦する年度後半となりました。今まで以上に広報に注力し多くの方に知っていただき、ご利用者及び職員確保にも注力して安定した適切なサービスの提供を継続し、地域の皆様に貢献出来るよう努めて参ります。

令和6年度事業報告（施設名 居宅介護支援事業所シニアガーデンアネックス）

事業所名	定員	稼働率
居宅介護支援事業所 シニアガーデンアネックス	ケアマネージャー 6名	96%

事業の概要

ケアマネージャー6名体制(内3名は主任ケアマネージャー)で活動しました。
稼働については、取得可能な加算を算定しつつ稼働を安定させることができました。

安心して働ける職場の実現の一環として、令和6年度義務化となった感染症や災害発生時の業務継続計画を基に安全に継続的に働ける体制作りに努め、感染症流行時期も事業が途切れずに業務を継続することができました。

また、ICTの活用による業務の効率化については、研修、会議のオンライン参加は実施できましたが、テレビ電話でのモニタリングやケアプラン作成補助AI等がまだ実用的な段階になっていないため、今後は実用段階となれば活用していきたいと思います。

人材育成については、複雑化・複合化した多様な支援ニーズに対応できるよう児童や障害者、生活困窮者等の高齢者以外の対象者に関する研修にも参加し、多問題を抱えるご利用者様・ご家族様に対して必要な対応、支援が行えるよう知識、理解を深めました。

連携については、入院等の状況の変化があった際に、早期に関係者間で情報共有を図り、すばやい解決、対応の取れる在宅支援チームの調整役としての役割を果たせるよう意識を持って多職種連携に努めました。

しかし、ニーズが複雑化している分、連絡・相談・調整にかかる時間が増加しています。また、医療との連携も進んでいますが、その分連携に要する時間も増えていることから全体的に業務量が増加している状況があります。

今後は業務の効率化を課題の1つとしていきたいと思います。

令和6年度事業報告（施設名 つくば総合福祉センター）

事業所名	定員	稼働率
つくば総合福祉センター 入所	40名	96%
つくば総合福祉センター 通所	20名	67%
つくば総合福祉センター 短期入所	4名	45%
つくば総合福祉センター 日中一時預かり	5名	52%

事業の概要

【入所】

2名の方が永眠退所され、7月と2月に新たな入所者を迎えましたが、日頃から当施設の短期入所サービスを利用していただくため、スムーズに移行することができました。今後も重度化に伴う退所は続いていくことが予想されるため、サービス移行がスムーズに行えるよう、待機者の確保を目的とした短期入所などの別サービス利用を促進していきます。また、2月にインフルエンザのクラスターがあり、合計7名が罹患し、内4名は重症化して入院治療を受けました。全員が退院して施設へ戻ることができましたが、入所者の高齢化に伴った症状の重症化が増加しているため、早期発見、早期対応ができるよう、部署同士の連携強化や、病院との適切なタイミングでの情報共有に努めてまいります。

【通所】

新規で3名の利用者と契約を結んでいますが、昨年度に比べて稼働率は8%下がっています。要因として、定期利用者の障害の重度化に伴う体調不良でのキャンセルが多くなっていることがあります。変化していくニーズに柔軟に応えられるよう、サービス管理責任者を中心に通所部門の受け入れ体制の見直しを図り、実績の回復を目指していきます。

【短期入所】

定期利用者2名が入所支援へのサービス移行をしたことで、昨年度に比べ稼働率は26%下がっています。新規で3名の利用者と契約を結んでおり、徐々に利用が始まっています。サービスに結び付いた背景として、事前に相談支援事業所や病院に利用対象者などを伝えておいたことで、主介護者の入院など、急な家族都合がある際、連絡があるケースが増えております。継続して、近隣の相談事業所や病院へ当施設の受け入れ状況を定期的に連絡し、新規利用者確保に努めます。

【日中一時預かり】

新規で6名の利用者と契約を結ぶことができました。本事業は、当施設の別サービスへつなげる窓口的な役割が強くなっています。まず、このサービスで日中の施設利用に慣れ、その後、短期入所での夜間サービス利用の流れをとることで、利用者・家族が安心してサービス利用ができるよう調整しています。継続して、利用者・家族を中心としたサービス調整を行っていき、定期利用者の増加に努めます。

令和6年度事業報告（事業所名 サポートプラザつくば）

事業名	実績	稼働率
特定相談支援事業・障害児支援事業(計画)	214 件	110%
特定相談支援事業・障害児支援事業(モニタリング)	797 件	103%
一般相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	1 件	—
つくば市障害支援区分認定調査(つくば市委託)	26 件	—

事業の概要

【特定相談支援事業・障害児支援事業(計画・モニタリング)】

相談対応においては、障害者の親亡き後の生活、8050 問題、貧困、ネグレクトなど、複雑化、複合化した多様なニーズを要する困難な対応ケースが増加しており、利用者各々に対する支援量は増加傾向にあります。

令和6年4月より、相談員1名が相談支援専門員の資格取得ができたことで、事業所体制加算については、最高位の『機能強化型Ⅰ』が取得でき、1件当たりの報酬単価を増収させることができました。また困難ケースにおいては、モニタリング頻度を短く設定し、よりきめ細やかな相談支援が提供できることで、利用者の安心・安定した生活の実現につなげられることに加え、稼働率も目標値を上回ることができました。

【一般相談支援】

地域で一人暮らしを行う(または退院後に福祉サービス利用予定の)障害者をサポートする相談支援です。報酬を得るには、厳しい要件が定められており、当事業所だけではなく、つくば保健所圏域においても対応実績数が上がらない現状があります。国の施策的にも地域移行の促進が求められているため、地域行政と相談しながら、実績につなげられるよう体制を整えていきます。

【つくば市委託業務（相談支援委託事業所・基幹相談支援センター・障害支援区分認定調査）】

相談支援委託事業所、基幹相談支援センターとしての役割も担っており、困難事例への対応や令和6年より運用が開始された『つくば市地域生活支援拠点事業』への取り組み、相談支援事業所連絡会の運営及び市内事業所に在籍する相談支援専門員の人材育成等に携わるなど、業務内容も年々増えつつあります。

令和6年4月からは、収入面では委託費用の見直しがあり、増収につなげることができました。ただし、特定相談支援事業と並行して委託業務に従事する中、役割が多岐に渡ることで、業務がひっ迫している現状があります。職員の健全な働き方が可能となるよう、業務量と収支バランスを調整しながら運営していきます。

令和 6 年度事業報告（施設名 六本木ヒルサイドホーム）

事業所名	定員	稼働率
共同生活援助(入居)	10 名	100%
短期入所(ショートステイ)	2 名	70.2%
	名	%

事業の概要

- ・共同生活援助(入居)は現在満床で推移しております。
感染症の流行等もなく、入居に関しては落ち着いています。
今後も健全な運営ができるよう、他事業所や行政等と連携を図っていきます。
- ・短期入所(ショートステイ)は複数の新規利用者獲得により稼働率が向上していますが、今年度末に女性ロングショートの利用者が他グループホームに入居された為、女性ロングショート利用者の獲得が急務となっています。
新規女性利用者の獲得、既存男性利用者の利用維持を目標に運営を行っていきます。
- ・障害者福祉事業所の運営に関しては、引き続き、預かり金等の取扱に重きを置いていきます。
主な取り組みとして、月に一度 GH 内の職員 2 名での貴重品・金銭の確認を行い、外部の目を入れる為二か月に一度経理職員に協力を仰ぎ金銭の確認を行っています。
今後も、より透明性の高い健全な運営と、利用者様・ご家族様との信頼関係の構築を目指し、事業所運営に取り組んで参ります。

令和6年度事業報告（施設名 永福南社会福祉ガーデン）

事業所名	定員	稼働率
永福南社会福祉ガーデン（特養）	60名	91%
永福南社会福祉ガーデン（入所支援）	10名	98%
永福南社会福祉ガーデン（通所）	6名	74%

事業の概要

（特別養護老人ホーム）

今年度の稼働につきましては年度内の入所者20名に対し、退所者が22名と退所者の方が多く、稼働を伸ばすことが出来ませんでした。申込者について他区への営業活動を行ったこともあり、前年度は月平均2～3名だったところ、今年度は5～6件と増やすことが出来ました。しかし、入所までに時間がかかってしまうことが多く、稼働率の増加にはいたりませんでした。今後も営業活動を行い、申込者、待機者の確保につとめてまいります。

職員につきましては特定技能実習生が現在6名採用したことにより、派遣職員は5名となっております。今後も派遣職員を減らせるよう努力してまいります。

（障害者支援施設 入所）

今年度は7月、3月に1名ずつ退所がありました。8月に1名入所し、1名は現在入所に向けて調整中で、5月には入所予定となっております。

職員につきましては特養と同じく特定技能実習生の3名採用、職員紹介などにより、職員も安定してきております。

（障害者支援施設 通所）

今年度もコロナに感染する利用者はなく、安定した稼働ができました。あと1名受入は可能となっておりますが、送迎に要する時間や人員に課題があり、現在、杉並区と調整をしています。できるだけ柔軟に対応できるよう、施設内の体制を構築し、稼働向上に努めます。

令和 6 年度事業報告（施設名 南麻布シニアガーデンアリス ）

事業所名	定員	稼働率
地域密着型特別養護老人ホーム 特別養護老人ホーム	100 名	95.9%
短期入所生活介護	10 名	24.4%

事業の概要

<入居>

令和 6 年度の平均稼働率は 95.9%と、前年比 0.8%の微増となりました。港区への申込者数も増加し、上期は稼働も安定しておりましたが、下期に入居調整担当の生活相談員の交代により指導をしながらの調整となり時間を要しました。また、年末より新型コロナのクラスターが発生したことを機に、入院や退居者が徐々に増え稼働に影響がありました。

入居者の増加に伴い、介護事故の件数も増加したため「眠りスキャン」を施設の約 6 割のベッドに増設し、見守りのリアルタイムモニターとして“転倒・転落”や“徘徊”の状況把握のほか睡眠習慣のアセスメントによる内服薬の調整、心拍・呼吸数の推移の可視化は体調管理や看取りの際に活用できるようになりました。このことは、介護現場における生産性向上のひとつとして考え、業務改善に反映するための委員会を発足し、サービスの質の向上について検討を重ねております。

また、新たな取り組みとして「食事レク」を開始いたしました。各ユニットでご入居者様が介護職員や給食委託業者の担当者とともに行う麺類の湯切りやおにぎり作りをはじめ、目の前で調理された食事の盛り付けを行う等、ご自身で準備をする機会はとても好評であり、今後はさらに複数の献立からご自身で選択ができる食事の提供も計画しております。

<短期入所>

令和 6 年 6 月に短期入所ユニット（10 床）を開設いたしました。入居と同様、2 か月前に港区へ申込を行う仕組みがあるほか、随時、居宅介護支援事業所より利用のご相談もあり、徐々にリピーターが増えております。生活相談員が入居（80 名）と兼務の状況であり、入居調整と並行して利用調整を行っております。送迎の公用車の運転ができる職員は限られており、ご家族様のご協力を得ながら受け入れ件数の増加を図ります。

<その他>

介護人材の確保については、港区や看護協会主催の面接会でも効果が得られず、欠員時には特定技能実習生を採用しております。その他、必要時に必要な時間のみ働く「ワークシェア」など多様な働き方の導入により、ご入居者様のサービスの維持に努めて参ります。

令和6年度事業報告（施設名 港区立障害者支援ホーム南麻布 ）

事業所名	定員	稼働率
施設入所支援	40名	85%
生活介護	40名	85%
短期入所	4名	62%

事業の概要

【入所】

開設から5年が経過し、最重要課題であった支援員の雇用と定着については、今年度より特定技能実習生や派遣職員の積極的な採用も進み、目標の人員体制に近づいてきました。稼働については、港区の公募にて3名の入居候補者と2名の待機者が対象となり、現在、入居に向けて対応しています。来年度は人材確保と公募の時期を検討し満床を目標にしています。コロナ禍の時期に叶わなかった町内会の祭禮への参加・貸し切りバスでの外出活動・プール活動・ボランティアの方々とのふれあい・ピアノや雛人形・五月人形の寄贈等地域交流の機会も大幅に増やすことができました。また、日々のご家族の面会も増え、職員とのコミュニケーションを通し、これまで持たれていた不安の解消に繋がり良好な関係の構築に繋がっています。今後も他施設の取り組みや社会資源の情報の収集と共有を図り、更に様々な交流の機会を増やして地域に根差した施設となるよう努めていきます。

【生活支援】

ご家族からの一番多い要望でもある日中活動の充実については、毎月の委員会での協議を重ね、様々な取り組みを実践しています。ご入居者の障害の程度には大きな差があり、全員が同じ活動をするのが不可能なため、リハビリテーションも兼ねたグループ活動も企画して行っています。いかにして、ご入居者の満足度を上げることができるかは、今後も大きな課題として取り組んでいきたいと考えます。

【短期入所】

定期的に利用される方々も増えてきました。また、家族の虐待や医療的ケアのあるケースの緊急的な受け入れも行い、区立施設として地域貢献できる機会が増えました。昨年度は女性利用者の利用が極端に少なかったのですが、今年度は利用も増え、満床となる日もあります。ご利用者だけでなく、ご家族から信頼を得て利用していただくことが、最も大切なことと考えますので、普段からコミュニケーションをとる機会をもって、安心して利用していただける施設づくりをめざします。

令和 6 年度事業報告（施設名 港区立障害者支援ホーム南麻布 ）

事業所名	目標/実績	稼働率
計画（特定相談支援・障害児相談支援）	21 /41 名	195 %
モニタリング(特定相談支援・障害児相談支援)	43 /68 名	158 %

事業の概要

【運営概要】

令和 2 年 3 月に開所して、5 年が経過いたしました。港区に住まわれている障害者や障害児の方を対象に、障害福祉サービス利用に伴う計画の作成や申請手続き、定期的なモニタリングを実施しています。

また、港区内の他相談事業所、他基幹相談センターからの困難ケースの依頼も多く、その都度、状況や必要性に応じた支援やサービス調整を継続して行っています。

【課題】

令和 5 年度は契約者 33 名、令和 6 年度は契約者 50 名、相談支援専門員 1 名と非常勤 1 名で対応してきました。新規相談は増加傾向にあります。また、港区内の相談支援事業所の閉鎖が毎年 1～2 か所あり、港区立の相談事業所間でケースの引継ぎを行っています。

昨今は障害福祉サービスにおける利用需要の複雑化や多様化が進み、サービスを提供する事業所が開設や閉鎖が続く中で、地域における最新の障害福祉サービスに関する情報を相談員が常に把握し、利用者様のニーズに合った情報提供や提案を行っていくことが課題となります。

【対策】

積極的に相談支援事業所連絡会、4 事業所連絡会などに参加し、それぞれのケースの検討や情報共有を継続して行うことで、最新の社会資源の把握に努めます。そして、今後も地域の交流会や面談・訪問を通して、人と人との直接的な関わりを重視し、より多くの利用者様に対して適切な支援を提供できるよう努めます。